

H24.9.15

セカンドオピニオン外来



長尾和宏 (ながお・かずひろ)
東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療総合診療を目指す。医学博士。労働衛生コンサルタント。関西国際大学客員教授。54歳。ブログ(<http://www.nagaoclinic.or.jp/doctorb/doctorblog/nagao/>)が好評。

セカンドオピニオンという言葉を聞いたことがありますか。他の医者の意見を求めることがあります。時々、通常、がんや難病など重大な病気に直面したときに、主治医以外の医者の意見を聞くことを指します。抗がん剤治療を受けないか、胃ろうをするのかしないのか、現在の病院不満があり、転院するのかしないのか。

セカンドオピニオンを求め

大きな病院にはよくセカンドオピニオン外来が開設されています。自費診療として1件1万円程度で相談を受け付けているようです。その外にある担当医師に聞いたことがあります。自分が好きな仕事ではないとのこと。もし主治医と真反対の意見を述べると患者さんが混乱するからだそうです。医者の発言は重く、大きな責任を伴います。まして1時

最後の決断はやはり本人・家族

る患者さんの気持ちはよく理解できます。セカンドオピニオンを求める人が連日のように来られます。メールや手紙での相談もたくさん舞い込みます。しかし、相談を受ける医者

間もあればたくさんの患者さんを診察したり、処置ができるかもしれません。これが医者の本音かも

う。ですから通常は一般論しかいえません。
もちろん悩みに耳を傾けて、いろいろ情報提供しアドバイスはしますが、「現在の主治医とよく相談してくださ
いね」で終わることが多いです。標準的なこと、教科書的なことしかいません。

セカンドオピニオン外来 よりよい決断をするために、当事者以外の専門的な知識を持つ他の医者に求める「意見」。診療情報提供書を持参する必要がある。「診療」ではなく「相談」になるため、全額自己負担となる。

Dr.
和の町医者曰く
医者曰く

「医者の本音」シリーズ②

間もあればたくさんの患者さんは、CT画像などを持つて、このあたりの事情もきちんと知つておいて、聞きたい情報だけを集めるのがセカンド院のセカンドオピニオン外来だと思います。相談を受けた他の医師が最終決定するのではありません。もし事情があつてそれがりません。いろんな情報を基に決めるのは、あくまで患者さん側です。

開業医ら「かかりつけ医」の方方が得心がいく場合もあるでしょう。患者さんの既往歴、職業、性格、家庭環境、時には人生観まで知っているからです。普段の雑談の積み重ねが、そんな時に生きています。後悔のない選択をするためには、セカンドオピニオン

は、誰もあること。とくに医療が発達すればするほど、選択肢が増えるのは必然です。後悔のない選択をするた

ひ ょ う び